

Ohio 州立大学では、印象材による印象採得は行っておらず、すべて光学印象にて行っている。光学印象で得られたデータは、模型計測をコンピュータ上で行うことができる。また、3D スキャナーにても作業用模型を作製し、装置の作製を行うことも可能であった。さらに、模型保管庫などのスペースも必要がないのも利点として挙げられる点である。

また、研究面では Ohio 州立大学と共同研究を行いました。CBCT 画像より下顎頭の形態を計測し、顎顔面形態と顎関節の形態との来年の AADR に共同発表絵を行う予定です。さらに、本研究結果を英語論文にて発表予定です。今後も継続して本学と Ohio 州立大学との共同研究を進めていく予定である。

今後は、本研修にて学んだことを、本学の教育、臨床、研究に生かしていく必要があると考えている。

本研修にあたり、御高配賜りました学校法人晴川学舎 理事長 影山英之先生に心から感謝申し上げます。

17) ベトナム社会主義共和国における口唇口蓋裂医療援助の活動報告

○菅野 勝也, 飯島 康基, 高橋文太郎, 川嶋 雅之
中島 朋美, 鈴木 佑太, 浅倉 彬人, 早乙女大地
玉木 究, 臼田 真浩, 角田 隆太, 小嶋 忠之
御代田 駿, 川原 一郎, 金 秀樹, 高田 訓
大野 敬

(奥羽大・歯・口腔外科)

【はじめに】口唇裂・口蓋裂は顎顔面に発生する先天奇形の中で最も頻度が高い疾患である。全世界では様々な理由で適切な時期に手術を受けられない子供たちが存在する。「NPO 法人東京発アジアの子どもたちに微笑みの輪を広げる無償医療ネットワーク」は、アジアの発展途上国において口唇裂・口蓋裂を中心に医療支援活動を行っている。今回同法人が行ったベトナム社会主義共和国での無償医療援助に参加したので、その概要を報告する。

【活動内容】期間は2016年11月20日から11月26日の7日間で、ベトナム社会主義共和国ホーチミ

ン市の odonto-maxillo-facial センターで行った。日本の診療隊は8名で、カナダの Dalhousie 大学の診療隊とともに活動を行った。診察はカナダ人医師とともにを行い、病態の把握や手術時期について診断した。写真や診療録を作成し、手術計画立案を行った。器材は現地の物の他に、医療機器メーカーからの援助物資や法人の器材を用い、日本で準備されるものとほとんど変わらない充実した内容であった。日本の診療隊が行った無償手術は、口唇形成術7例、口蓋形成術6例、口唇修正術2例、口角形成術1例、下唇癒痕除去術1例で計17件施行された。手術は日本とほとんど変わらない水準で行われた。援助であるから失敗してもいいなどという無責任な発想は全く見られず、安全で確実な手術が妥協無しに遂行された。医療援助ではベトナム人スタッフへの医療技術指導も同時に行われた。

手術翌日は入院施設を訪問し、必ず術後の状況を確認した。以降の治療は現地スタッフに依頼するが、1年後の同法人医療援助時に病院を訪れ経過観察を行う予定である。

【まとめ】「NPO 法人東京発アジアの子どもたちに微笑みの輪を広げる無償医療ネットワーク」が行ったベトナム社会主義共和国での無償医療援助に参加した。ホーチミン市はアジア地域の中では発展した都市であるが、口唇裂・口蓋裂治療に関しては不十分な点があり、今後も医療援助が必要だと感じた。活動は日本での臨床において参考になる部分が多く、有意義な活動であった。

18) エレクティブスタディ (ES) の有用性について

○吉田 弦¹, 渡邊 崇², 小松 泰典³, 成田 知史²
保田 穰^{2,3}, 佐藤 健太², 北條健太郎^{2,3}, 山家 尚仁^{2,3}
鈴木 史彦², 佐々木重夫², 清野 晃孝^{2,3}, 瀬川 洋²
杉田 俊博^{2,3}

(奥羽大・歯・学生¹,

奥羽大・歯・附属病院・地域医療支援歯科²,

奥羽大・大学院・総合診療歯科学³)

【緒言】演者は昨年奥羽大学歯学部に入學し、総合診療歯科学のエレクティブスタディ (以下 ES) を選択した。選択した理由は単一の学科目